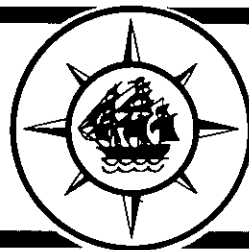


Operation Raleigh News



Operation Raleigh

DENSO

No.30

昭和62年(1987)4月10日
毎月1回発行

●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装㈱のご協力で制作されたものです。

さあ!いよいよ日本フェイズスタート!

大阪港でオープニングセレモニー



Operation Raleigh Japan Phases
オペレーションローリー日本フェイズ
OPENING CEREMONY
主催 オペレーションローリー日本委員会 協賛 日本電装株式会社

▲北海道プログラムのベンチャラーたち(船客ターミナル2階)

日本フェイズオープニングセレモニーは4月7日(火)午前11時から大阪港天保山岸壁船客ターミナル2階ホールで、外務省、大阪市など関係官庁代表、ORJC委員・実行委員、ゼブ号乗組員、日本フェイズ参加ベンチャラー、ロンドン本部スタッフ、ORJCスタッフなど約200名および報道関係者を集めて開催されました。船客ターミナル2階ホールから見える接岸中のゼブ号はあいにくの雨のなかでしたが、セレモニーは牧野勇治ORJC事務局長の開会あい

さつ、永井道雄ORJC委員長、トニー・ウォルトン日本フェイズ運営本部長、田辺守日本電装副会長のあいさつなどが、若いベンチャラーたちの熱気に包まれて行なわれました。さらに、来賓として出席の大島靖大阪市長の乾杯音頭、天羽民雄外務省大阪担当大使のあいさつが続きます。

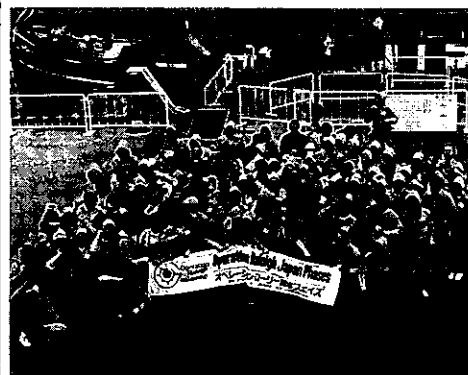


また、日本フェイズ参加ベンチャラー、スタッフがステージ上でプログラムごとに紹介されました。北海道チームは、外国隊で初の知床半島

縦走への決意を力強く表明。本州チームは、ハモニカ伴奏で「富士山」を全員で歌い、沖縄チームもサバニ船やイリオモテヤマネコ調査などへの意欲を語りました。さらにゼブ号船長、オーナー夫妻、クルー、ベンチャラーが激励の歌を歌い、日本フェイズの壮途を祝います。

午後1時すぎには全ベンチャラーが天保山岸壁に停泊中の帆船ゼブ号前に集合、強くなった雨足をもともせず、記念撮影を敢行。

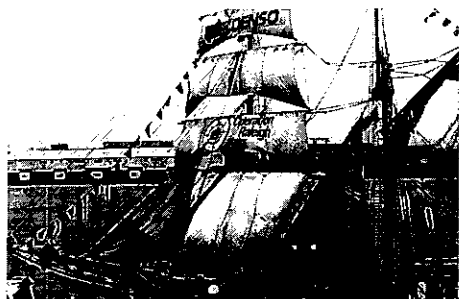
この後、各プログラム地へ向けてベンチャラー、スタッフたちはバスで出発しました。



▲ゼブ号の前で記念撮影(天保山岸壁)

●日本フェイズ参加ベンチャラー内訳

| プログラム 国名 | 北海道 | | 本州 | | 沖縄 | | 小計 | | 合計 |
|-------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| イギリス | 15 | 7 | 11 | 11 | 9 | 16 | 35 | 34 | 69 |
| U.S.A | 2 | — | 4 | 1 | 2 | 1 | 8 | 2 | 10 |
| ニュージーランド | 2 | — | 1 | — | 2 | — | 5 | 0 | 5 |
| オーストラリア | 2 | — | — | — | — | 1 | 2 | 1 | 3 |
| カナダ | — | — | — | 2 | 1 | — | 1 | 2 | 3 |
| イタリア | — | — | — | — | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| スウェーデン | — | — | — | — | 1 | — | 1 | 0 | 1 |
| バハマ | — | — | 1 | — | — | — | 1 | 0 | 1 |
| 香港 | — | 1 | — | — | — | — | 0 | 1 | 1 |
| シンガポール | 1 | — | — | — | — | — | 1 | 0 | 1 |
| 日本 | 3 | 2 | 5 | 5 | 2 | 3 | 10 | 10 | 20 |
| 計 | 25 | 10 | 22 | 19 | 18 | 22 | 65 | 51 | 116 |



▲帆をあげて日本フェイズ開始を祝うゼブ号

日本フェイズの詳細まとまる

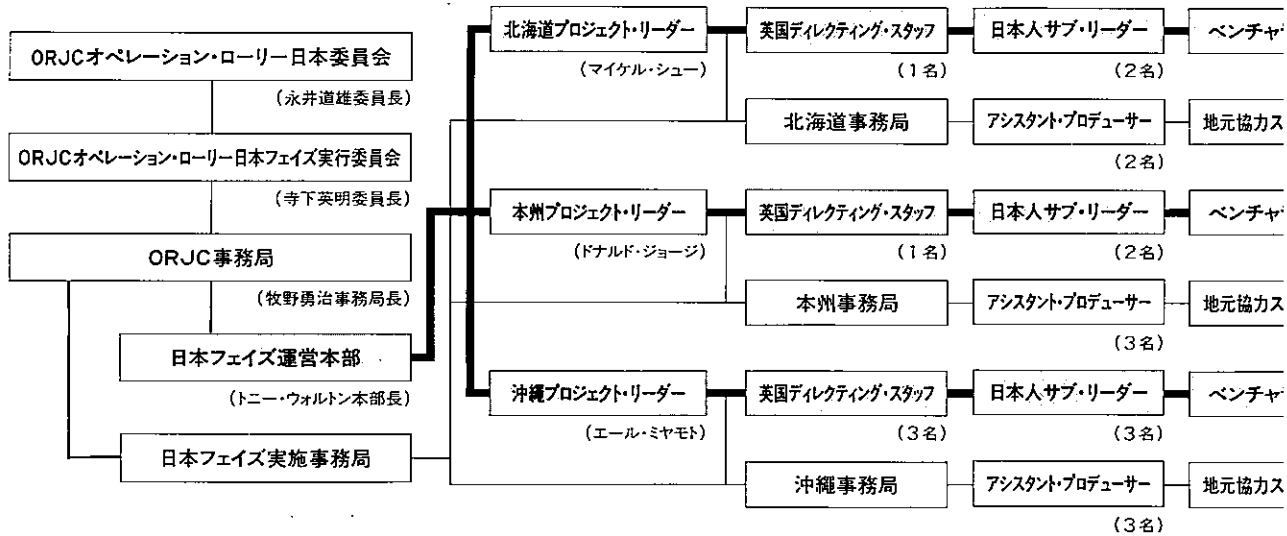
組織体制・各プログラムの日程など

オペレーション・ローリー日本フェイズは、4月7日大阪港でのオープニングセレモニーでいよいよスタートしましたが、それに先立ちORJP(日本フェイズ実行委員会)から「日本フェイズ実施マニュアル」が発表されました。全体の運営スケジュール、組織体制、各プログラムのスケジュール、備品リストなど、きめ細かくめられています。そのなかで運営組織図と各プログラム別の最終的なスケジュールをご紹介します。

特集

オペレーション・ローリー日本フェイズ

運営組織図



スケジュール

| プログラム | 4月 | 班編成変え |
|----------|-----|-------|
| 北海道プログラム | 7日 | 6日~ |
| | 8日 | |
| 本州プログラム | 8日 | 2日 |
| | 19日 | |
| 沖縄プログラム | 8日 | 2日 |
| | 16日 | |

| プログラム | 7日 | 8日 | 9日 | 13日 | 2日 | 6日~ |
|----------|------------------|---------------------------|--------------|--|--------|----------------|
| 北海道プログラム | 知床ベースキャンプ到着 | 歓迎セレモニー | 縦走準備 | 知床半島全山科学縦走 知床半島全山科学縦走サポート (部分縦走) | 班編成変え | ホームステイ 漁業体験 |
| 本州プログラム | オープニングセレモニー(大阪港) | 東海自然歩道プロジェクト (箕面→美濃加茂) | 木曾川 いかだ下り | 大峰山・高野山プロジェクト | 三州足助プロ | |
| 沖縄プログラム | 船で那覇・石垣経由西表島へ | ベースキャンプ地整備 | 黒島へ移動 | ウミガメ調査 ウミトビ調査 | イリオモテ | |



サバ

日本フェイスの話を風の便りに聞いていた時には、自分がこのように全面的に関わることになるとうちは、思ってもいませんでした。だいたい日本で今までのフェイスに劣らないような計画を立てることができるのだろうか、もしどこかに登山のプロジェクトがあったら少しだけ顔を出そう、そんなふうに考えていました。

けれども、送られてきた計画書の中に知床の全山縦走を見つけた瞬間、やられた！と思うと同時に何としてもサブリーダーとして参加しようと発作的に決めてしまいました。幸いスタッフ選考会の結果、知床のサブリーダーに選ばれ、今は準備のためにあちこち引きずり廻され、ない知恵を絞っている毎日です。

今回、知床での活動については、自分なりに幾つかのテーマがあります。全山縦走に関しては、とにかく無事故でなるべく多くのベンチャーに知床の山を楽しんでもらうこと。

楽しくなければ ORじゃない



北海道プログラム
サブ・リーダー

堀内一秀

(バハマ・フェイス参加)

いくらか山をかじっていた自分にとって、知床の全山縦走は非常に魅力的でやりがいのある計画です。そのかわり、雪のある知床の山を二週間以上歩くことには幾つかの危険が付きまとうことも予測できます。しかしアドベンチャーに危険はつきもの。その危険を予想できる範囲で最少限にするのが我々スタッフの仕事。詳しい計画内容とサポートにあたっていただくメンバーを知るにつれ、危険に対する心配は小さくなってきました。今では、この体制ならば春の

知床を安全に楽しむことができるだろうと確信するようになりました。

それから、3ヵ月の間にどれだけ素晴らしい出会いがあるかということもテーマのひとつです。ORでの一番の収穫が友人であるということは今まで参加した人には十分理解してもらえることだと思います。

自分自身については、準備でいろいろな人にとってまわるなかで、既に心ときめくような出会いが幾つもありました。本番では更に愉快的な連中が三十人以上も知床にやってきます。彼らと出会い、また彼らどうし素敵な出会いを持ってもらえれば、サブリーダー冥利に尽きるということです。

ぼくの中での日本フェイスはもう始まっています。知床へ行けばトラブルはあって当然。それらをうまく消化して、とにかく楽しいフェイスに仕立てよう。今は、そんな心境です。

とれと

名) フ

名) フ

名) フ

| 5月 | | | | | | 6月 | | | | | | 7月 | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------|-------------------|------------------|----------|----------|------------|---------------------------|---------------|----------------|--|
| 11日 ~ 16日 公園遊具 展望小屋づくり | 18日 ~ 23日 公園遊具 展望小屋づくり | 25日 ~ 30日 登山道 道標づくり | 班編成変え | 31日 ~ 6日 知床横断登山道 整備 ウトロ→硫黄岳 | 8日 ~ 15日 知床横断登山道 整備 ウトロ→硫黄岳 →ラウス岳 | 18日 撤収準備 | 19日 撤収・お別れパーティ | 22日 富士山へ移動 | 28日 | 29日 | 30日 | 1日 東京代々木青少年スポーツセンターへ移動 | 3日 体験フォーラム | 5日 成田空港より帰国 | |
| ホームステイ 漁業体験 | 公園遊具 展望小屋づくり | 知床火事跡調査 (面積植生) *沢登りプロジェクト | | 知床横断登山道 整備 ラウス→ラウス岳 | 知床横断登山道 整備 ラウス→ラウス岳 →硫黄岳 | 朝霧野外活動センターへ移動(奉仕・報告書づくり) | 全体報告会・キャンプファイヤーなど | 富士登山 | | | | | | | |
| 交流プログラム 英会話教室 スポーツ交流 | ホームステイ 漁業体験 | 知床火事跡調査 (面積植生) *沢登りプロジェクト | | | | 20日 徒歩移動 | | | | | | | | | |
| 21日 東海自然歩道プロジェクト (足助→富士) | 22日 東海自然歩道プロジェクト (天理→富士) | | | 2日 富士山プロジェクト (蘆山の家) | | | | | | | | | | | |
| 15日 古見スラ所調査 | 17日 古見スラ所調査 | 26日 石垣ハ 参加 | 30日 石垣ハ 参加 | 31日 石垣ハ 参加 | 3日 ~ 7日 ウミガメ調査 | 10日 ~ 14日 シャコ貝放流 オニヒトデ駆除 | 17日 ベースキャンプ撤去 | 19日 富士山へ移動 | | | | | | | |
| 17日 ~ 21日 鹿川遺跡調査 | 21日 ~ 26日 シャコ貝放流 | 30日 白浜ハ 参加 | 31日 白浜ハ 参加 | 3日 ~ 7日 西表 ウミガメ調査 | 10日 ~ 14日 稲刈り | | | | | | | | | | |
| 12日 西表島 | 13日 小浜 | 14日 竹富 | 16日 石垣島 | 18日 平久保 | 20日 多良間 | 23日 水納 | 25日 水平 | 28日 平良ハ 参加 | 3日 平良 | 4日 池間 | 11日 渡嘉敷 | 14日 糸満 | | | |

ORの精神を学びたい

小さなゼブ号が大きく見える



▲歓迎スピーチ中の田辺副会長

Welcome Message from Mr. Mamoru Tanabe, Executive Vice Chairman of NIPPONDENSO CO., LTD.

Welcome to Nagoya, I would like to extend my warmest welcome to all the venturers of Operation Raleigh, Captain Peter Masters, the crew of ZEBU and my dear ZEBU herself. I know ZEBU is a small tall ship weighing only 67 tons, but today she looks very big and wonderful. ZEBU's ability to sail half way around the world, with her sail full of the dreams of young people from the world over, makes her look larger than life.

The challenge held by the future, friendship and cooperation between so many nationalities, days of trial and tribulation that you have overcome and will do again in the future, make the experience and encourage the spirit that will solve problems within nations and enterprises around the globe.

NIPPONDENSO CO., LTD. is no exception. 36,000 employees of NIPPONDENSO CO., LTD. will follow the spirit of Operation Raleigh with a new goal for the next generation and they, in turn, welcome ZEBU.

I have prepared various programmes for the venturers who will take part in the Japan Phase. Share the Operation Raleigh spirit with young Japanese. Take care of yourself. I want you all to complete the phase in Japan. I also wish ZEBU good sailing.

I appreciate the cooperation of Nagoya Port Authority, Nagoya City and Aichi Prefecture. Thank you very much.

●ORJC委員 田辺守 日本電装副会長 歓迎メッセージ(和訳要旨)

ようこそ名古屋へ。若い友人諸君、オペレーション・ローリーのみなさん、マスターズ船長はじめ乗組員のみなさん、そして、わが愛するゼブ号。たった67トンしかない小さな帆船が、きょうはとてますばらしく、大きく見えます。世界各国の若者の夢をいっぱい帆に受け、地球を半周してきた実力がそのように思わせるのでしょうか。

未知への挑戦の精神、国籍を越えた友情と協力。オペレーション・ローリーのスタッフの支援に支えられ、みなさんが乗り越えてこられた、また、これからも経験されるであろう忍耐と試練の日々……。これらの経験と精神こそは、現在の世界中の



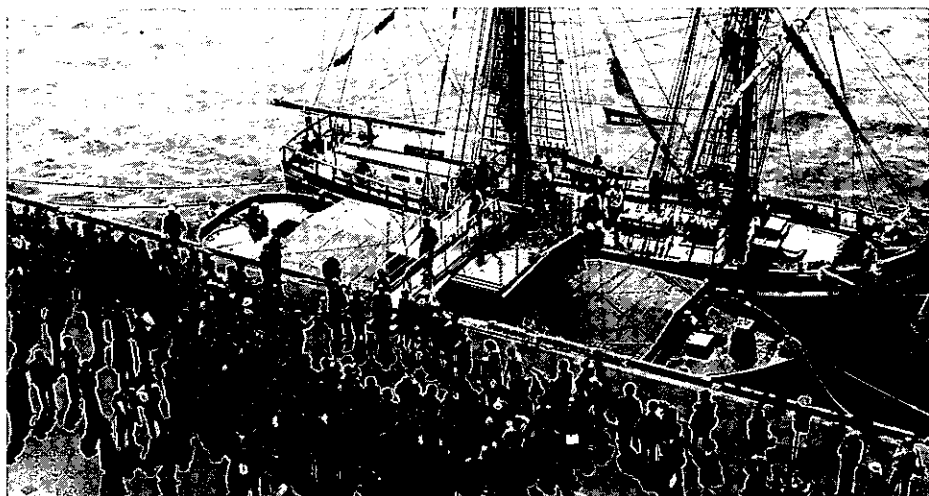
国々や企業が直面しているさまざまな問題を解決するに必要なものであると思います。この点においてわが日本電装も例外ではありません。きょうゼブ号をお迎えできましたのを機に、36,000人の社員全員が、若いも若きもこのオペレーション・ローリーの精神を模範とし、次の時代の新しい目標をめざし、自己変革を続けていきたいと思っています。

みなさんのためには、さまざまな日本国内の冒険プログラムを用意いたしました。この活動と交流を通じ日本の若者にもオペレーション・ローリーの精神を伝えてください。健康には充分気をつけて、日本での活動を完遂されますよう、また、ゼブ号が安全な航海を続けられますようお祈り申し上げます。

終りにあたり、このすばらしい歓迎をご用意くださった名古屋港管理組合、名古屋市、愛知県の関係各位に深くお礼申しあげ、ごあいさつに代えたいと思います。

ようこそ帆船ゼブ号 名古屋でも大歓迎受ける

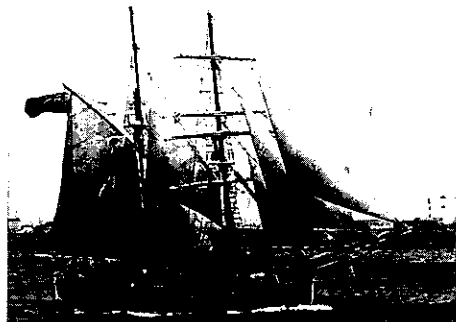
3月19日(木)午前11時、帆船ゼブ号が名古屋港ガーデンふ頭に入港しました。岸壁では日本電装プラスチック部の演奏が流れるなか、田辺守日本電装副会長、寺下英明日本フェイズ実行委員長らオペレーション・ローリー日本委員会関係者をはじめ、一般市民や報道関係者など約700人が出迎えました。まっ黒に日焼けした16名のベンチャーのなかには、日本から参加した戸島仁嗣君、渡辺美和さんの元気な顔も見られ、歓迎セレモニーでは、田辺副会長の英語による歓迎スピーチが注目を集めたほか、名古屋港管理組合関係者やミス・ポートオブナゴヤからピーター・マスターズ船長らに羽子板などの記念品や花束が贈られました。帆船と世界の若者たちの冒険心に対するマスコミの関心は高く、マスターズ船長、プロトン夫妻、ベンチャー



▲ゼブ号と歓迎に集まった人々

にトニー・ウォルトン日本フェイズ運営本部長も出席して行なわれた記者会見には、テレビ・新聞の各社から大勢の記者がつめかけ、続いて行なわれた歓迎レセプションも終始なごやかなムードに包まれました。

約2週間の寄港中、ゼブ号は一般公開や体験クルーズを名古屋港で行ないました。また、16名のベンチャーたちは、大府市での田起しや餅つき、東浦町での清酒工場見学、名古屋市東区徳源寺での座禅、ホームステイなどを通じて、大勢の人々との交流を深めました。さらに、愛知県刈谷市の日本電装本社を表敬訪問、すばらしい歓待ぶりにみんな大感激でした。ゼブ号のベンチャーたち



▲名古屋港内での体験クルーズ



▲徳源寺での座禅修行

は3月31日、つぎの寄港地である大阪港に向けて出航しました。

なお、ゼブ号は4月4日から9日まで大阪港に停泊し、一般公開、ベンチャー交替などを行ない、日本フェイズオープニングセレモニーに参加後、9日午前11時日本最後の寄港地東京に向かいました。

ゼブ号ベンチャー 日本電装を表敬訪問

名古屋港に寄港中のゼブ号のベンチャーたち16名は、3月25日(木)・26日(木)の2日間にわたって日本電装を訪問しました。25日は午後2時30分から日本電装本社(愛知県刈谷市)で田辺副会長、天野重役らに迎えられ、懇談。席上、オペレーション・ローリーに対して、日本電装ほど理解や協力を示す企業は世界中にない、という発言が英国ベンチャーから飛び出すなど話がはずみました。

夕方6時から電装会館で同社の小林営業企画室室長、留学予定の若手社員らをまじえて会食。そのまま



▲日本電装本社正面玄関で同館に宿泊しました。

翌日はバスで日本電装西尾製作所



▲日本電装本社展示室

(愛知県西尾市)とトヨタ自動車元町工場(愛知県豊田市)を訪問。ベンチャーたちは一様に、そのスケールの大きさ、システム化された生産ラインに驚いていました。

会話に苦勞・だが心は通じ合った

ニュージーランド・フェイス 参加メンバー無事帰国

昨年12月からニュージーランド・フェイスに参加していた陶山佳久君、岩崎康子さんがこのほど帰国し、アンケートに答えてくれました。

Q1 当初のもくろみは?

陶山 さまざまな経験を積み、いろいろな人に会うことで、自分の視野を広げ、よりビッグな人間になるステップにしたかった。

岩崎 国際交流が目的でした。

岩崎「貴重な体験だった」

Q2 帰国後のORへの評価は?

陶山 自分にとってはとてもいい経験ばかりだったが、プロジェクトの一部に計画性の乏しいものもあり、不満なベンチャーもいたようだ。

岩崎 人生で二度と体験できないようなすばらしいことができた。

Q3 苦勞したことは?

陶山 英会話です。

岩崎 サンドフライに顔、手、足をやられたこと。

Q4 楽しかったことは?

陶山 一仕事のあと、仲間同士で喜びあうとき。

岩崎 落石の多い山に登頂できたことや沼地を歩き通したことなど、やったという達成感。



(写真) 上：岩崎さん 下：キーウィー

Q5 異国人とのふれあいで感じたことは?

陶山 会話がうまくできなくても、何か通じあうものがあると思った。国民性や考え方の違いは痛感した。

岩崎 同じ人間だと思った。

Q6 一番印象的だったことは?

陶山 フェイズが終了してみんなと別れたとき。

岩崎 ダイビング中に気分が悪くな

り、英国ベンチャーにめんどうをみてもらったこと。

陶山「ネズミ駆除で活躍」

Q7 有意義だった活動は?

陶山 ブレイクシー島でのネズミ駆除。計画段階で手落ちがあったが、僕がメンバーの中心で働くことができたという意味で有意義だった。

岩崎 キーウィー調査、スチュアート島で4日間歩き続けたことなど。

Q8 日本人と外国人の違いは?

陶山 外国人はオープンで、「奥ゆかしい」感じの人は少ない。

岩崎 日本人はおじぎをする。外国人は目上の人とも気楽に話せる。

Q9 日本電装に関する反応は?

陶山 日本人ベンチャーの費用を全額出しているということで驚いていた。

岩崎 「何をしている会社なのか」、「ORとの関係」など尋ねられた。



仲間のベンチャーと陶山君(中央)

旗艦SWR号

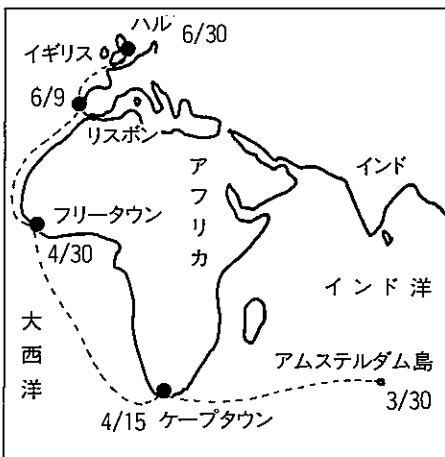
6月30日英国帰還へ

旗艦SWR号は3月下旬までアムステルダム島(インド洋上)に錨を降ろし、同島周辺の30種類におよぶ海藻類の調査を行ないました。またこの地域特有のアホドリ、トウゾクカモメなどの珍鳥を含む32種類の鳥類を確認しました。鳥の数は亜熱帯海域に近づくに従い、だんだん減少していったということです。

なお、ロンドン本部の情報によると、旗艦SWR号は3月30日、アムステルダム島を出航しました。4月15日にはケープタウン(南アフリカ共和国)、4月30日にはフリータウン(西アフリカ・シエラレオネ共和国)へ入港。途中いくつかの港を経由して、6月9日リスボン到着。リスボ

英国本部NEWS

ンを15日に出港し、英領のジャージー島・ガーンジー島を経てハンバー河口に至り、6月30日母港ハルに帰還する予定です。



オーストラリア・フェイス 3月末に活動地交代

オーストラリア・ビクトリア州でのフェイスは3月末に活動地の交代を行ないました。積雪のため飛行機が使えず、ベンチャーの移動には多少苦勞しました。ベンチャーたちの多くはトラックで移動し、どうやら全員無事目的地に到着することができました。その後天候は快晴がつづき、気温も30°C。ベンチャーたちもヤル気満々です。

砂漠地帯でベンチャーたちは専門家の指導のもとに、野生動植物の生態調査活動をしています。ウィルソンズ岬周辺では考古学調査やダイビングを、ティンガリンガリー国立公園では高山に生息している岩ワラビーなどの調査を実施しています。